



広島版

学びから始まる 地域づくりプロジェクト



ぽれっとひろしま

広島県立生涯学習センター



広島版

学びから始まる

地域づくりプロジェクト

—こんなプロジェクトです—

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」(略称:ひろプロ) 支援事業

趣旨

地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」^(※)が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域課題解決の活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援する。

※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の公民館類似施設を含む。

現状と課題

- 「高齢者の趣味・教養のたまり場」というイメージが定着し、利用が活性化していない。(利用者の減少・固定化)
- 多様な取組が行われているが、学びの成果を地域課題解決につなげる具体的な仕掛けやノウハウの蓄積がない。

→ 市町の取組格差あり

目指す姿

- 地域の多様な世代の人々(機関・団体等を含む。)が「公民館」に集い、豊かなつながりや学び合いが生まれている。
- 「公民館」がコーディネート機能を発揮し、住民の主体的な学びを通じた地域課題解決の取組を促進するための地域ネットワークの中核拠点となっている。

→ 市町の現状・課題に応じた県の支援

新たな取組の概要

- 住民の主体的な学びを通じた地域づくりの推進に向けて、社会や地域の課題解決と学びをつなげる「学習プログラム」のモデルを実証開発。

「ひろプロ」のコンセプト

- ① 広島モデルを実証開発(オール広島)
- ② 実践の拠点は「公民館」
- ③ アレンジ自由・成長性・発展性
- ④ 体験型・参加型・参画型
- ⑤ 連携・協働・共創

- プログラムをアレンジして各地域の実態に応じたプロジェクトをコーディネートできる人材(「公民館」職員等)を育成。

- 地域資源(社会資源)である「公民館」を活用し、行政(首長部局)や大学・企業・NPO、地域の関係機関・団体等の多様な主体と連携・協働しながら、地域住民が主体的に参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクトとする。

- 県及び市町の「社会教育主事」がその役割を発揮し、専門性(有用性)を生かす仕組みを取り入れる。

→ 市町では対応困難な県域でのモデル的取組

具体的なイメージ

■ 「ひろプロ」の実証開発

◆ 地域の未来像を共有するための学びの場づくり

地域づくりワークショップ、まちづくり学校、まちづくりカフェ、地域のお宝発見、公民館エリア探検、ふるさとの未来・再考! フォーラム、これからの○○地区を考える会、未来づくりトークセッション...

◆ 地域の人材による家庭教育支援

子育てサロン・おしゃべりカフェ(地域の居場所づくり)、子育て講座(「親の力」をまなびあう学習プログラム講座等)、家庭教育支援チームの組織化、子育てサポーター・ファシリテーター等の地域の人材育成、子育てに役立つ情報の提供・啓発...

◆ 地域の人材による地域学校協働活動の推進

公民館等を拠点とした体制整備・仕組みづくり、学校支援活動(学習支援、学校環境整備、登下校の見守り等)、放課後子供教室、地域未来塾、地域の人材発掘・育成(研修、人材バンク)、地域住民の理解促進・ビジョン共有...

◆ 地域の人材による社会的包摂の実現

地域子供食堂、○○公民館カレーの日、ユニバーサルカフェ、できること持ち寄りワークショップ、地域支えあいプロジェクト、セーフティネット学習会、地域支え合いマップづくり...

◆ 地域防災・減災の仕組みづくり

関係組織のネットワーク化、避難所運営の仕組みづくり、防災ワークショップ、防災キャンプ、防災フェスタ、防災運動会、子供防災士養成講座、避難所開設訓練、防災「ひろしまプログラム」、「みんなで減災」一斉地震防災訓練、ハザードマップ作成...

◆ その他(地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成)

若者やシニア世代の地域参画、地域行事活性化・地域の担い手育成、高齢者の健康・生きがいづくり、介護、多世代交流、グローバルリーダー育成、伝統文化継承、ふるさと教育、空き家対策、婚活支援、地域ブランド・特産品開発、コミュニティビジネス...

■ 学びを通じた地域づくりに関するコーディネート力の向上 (「ひろプロ」コーディネーター研修、モデル実践の支援)

- 「ひろプロ」の企画・調整・運営を務める職員対象の研修を実施
- 既存の「地域課題対応研修支援(訪問型研修)」の枠組を活用(拡充)し、市町の現状・課題に応じて、モデル実践を支援
- 「『ひろプロ』コーディネーターハンドブック」開発(調査研究)

■ 参加促進・成果発信・「公民館」のイメージ向上

- 事業成果発信による、新たな参加者層の巻き込み
- アイコン・イメージキャラクター等開発



「ひろプロ」マーク

現行の取組

公民館等活性化モデル事業 (H26~)

子供を含めた地域住民が公民館等に愛着と理解が持てるような活動に対して助成(企画の支援) 【主催:県公民館連合会】
→ 認知度向上・活用促進・情報充実

訪問型研修 (H28~)

各市町の課題に応じた研修の実施について、県の社会教育主事が訪問して支援
→ 研修が必要な市町への働きかけ

公民館等取組事例集 (H28~)

公民館等の取組事例を収集し、HPで情報提供
→ 新たな好事例の開発・支援

コンセプト

- ① **広島モデルを実証開発（オール広島）**
 - ▶ 今、広島県の「公民館」がおもしろい！
- ② **実践の拠点は「公民館」**
 - ▶ “公民館”も“コミセン”も
- ③ **アレンジ自由・成長性・発展性**
 - ▶ 地域オリジナルの未来を描く
- ④ **体験型・参加型・参画型**
 - ▶ 住民の主体性や当事者性を育む
- ⑤ **連携・協働・共創**
 - ▶ プラットフォームとして機能する場づくり

事業イメージ

社会課題 地域課題

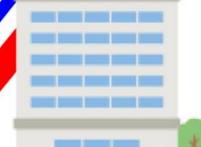
少子高齢化・人口減少
 (人生100年時代)
 地域の担い手不足
 防災減災
 環境・福祉
 産業・雇用
 家庭教育支援
 学校支援
 貧困・教育格差
 伝統文化継承
 グローバル化...

地域住民



大学・学校

地域住民



民間企業

- 地域の課題や将来像を共有
- 地域課題解決学習で住民をエンパワメント

- 学びの成果を地域課題解決へ
- 住民主体の協働のまちづくり

集う 学ぶ 結ぶ

NPO・
地域団体



生涯学習・社会教育関係職員

首長部局等



地域住民



市町
職員
社会
教育主事

「公民館」
職員

県
センター
社会
教育主事

地域住民



「ひろプロ」コーディネーター

地域資源（社会資源）の活用
(公民館, コミュニティセンター等)

課題解決

地域づくり
コミュニティ
の活性化

地方創生

地域づくりのための
新しいプラットフォーム
としての
「公民館」へ発展



※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の類似施設を含む。

学びを通じた地域づくりを支援する コーディネーター力の向上

ひろプロ
広島版 学びから始まる地域づくりプロジェクト
コーディネーター
ハンドブック

令和元年度広島県立生涯学習センター調査研究成果報告書

ばれっとひろしま
広島県立生涯学習センター



「ひろプロ」コーディネーター研修

みんなで作る・未来の〇〇プロジェクト (まるごと〇〇大学) 【〇〇公役部】

【目的】(目標達成の方向性) 〇〇を地域に広げたい

【背景】(現状把握) 〇〇の現状、現状把握

【実施内容】(実施、協力体制)

【成果】(成果)

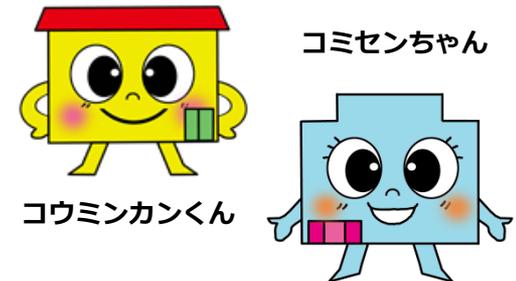
【今後の課題】(今後の課題)

モデル市町の実践支援 東広島市・世羅町 (R1・2) 竹原市・北広島町 (R2・3)

「ひろプロ」モデルの実証開発



「ひろプロ」マーク



「ひろプロ」 イメージキャラクター

ばれっとひろしま [検索](#)

「ひろプロ」で取組を期待するテーマ

- ①地域の未来像を共有するための学びの場づくり
- ②地域の人材による家庭教育支援
- ③地域の人材による地域学校協働活動の推進
- ④地域の人材による社会的包摂の実現
- ⑤地域防災・減災の仕組みづくり
- ⑥その他
地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成

企画・実践のヒント



1 コーディネーターの役割

- ① 住民の歩みに伴走する
- ② 客観的に地域を知る
- ③ 地域の過去と現在と未来をつなげ、企画する
- ④ プロジェクトを組み立て、実行に向けて調整する
- ⑤ 円滑はコミュニケーションをとる
- ⑥ 地域づくりの基盤となるネットワークを育む
- ⑦ ビジョンを持つ、共有する、更新する
- ⑧ プラットフォームとしての「公民館」をデザインする。

2 地域を知ろう（分析シートの作成）

○「分析シート」は、様々なプロジェクトを構想するための「地域カルテ」のようなもの。

【分析シート】		（所属）		（名前）	
選択テーマ		③地域の人材による地域学校協働活動の推進			
地域（市・町 地区）の概要や関係施策・事業の現状と課題分析				【記入例】	
地域の現状・課題 ①（今の地域）	地域課題解決の方向性 （こんな地域にしたい）	② 既存（現在・過去）の施策・事業		③ 地域の資源 （ヒト、モノ、コト、カネ…）	
		地域課題に関連する 公民館等の施策・事業 （取組名、内容、成果・課題）	関連行政・学校・ 民間・団体等の施策・事業 （取組名、内容、連携の有無）	施策・事業の改善や 新たな取組の方向 （可能性）	
<p>○少子化・核家族化の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口総数 ▲▲▲人 ・年少人口（割合） ▲▲▲人（▲%） ・生産年齢人口（割合） ▲▲▲人（▲%） ・老年人口（割合） ▲▲▲人（▲%） ・世帯数 ▲▲▲戸 ・一世帯当たり人員 ▲人 <p>○地域のつながりの希薄化</p> <p>○地域格差・経済格差の進行・事業所数</p> <p>○学校を取り巻く問題の複雑化・困難化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 児童数 ▲人 ・中学校 生徒数 ▲人 ・高等学校 生徒数 ▲人 <p>○公民館利用の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間開館日数 ・主催講座数 ・利用者数（うち主催事業分） ・利用の実態（世代別利用割合、特色ある事業） 	<p>○住民参画による地域ビジョンの形成・共有</p> <p>○若い世代の地域貢献活動の活性化・世代間交流</p> <p>○学びを通して社会に主体的に関わり行動する人材の育成</p> <p>○地域と学校が連携・協働して地域で子供を育てる体制の整備</p> <p>○大人も子供も学び合い、育ち合う地域づくりの実現</p>	<p>○夏休み体験講座▲▲キッズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の体験教室（活動…） ・参加者が集まらない ・学校との連携が希薄 <p>○学校の施設見学、体験学習の受け入れ</p> <p>○公民館まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館団体利用者の成果発表 ・参加者の減少、高齢化・固定化 ・担い手不足 	<p>○学校行事</p> <p>（文化祭、運動会、防災訓練、地区懇談会）</p> <p>○地域主催事業</p> <p>（文化祭、スポーツ大会、防災訓練、〇〇祭り）</p> <p>○▲▲課主催</p> <p>（こども▲▲博士講座）</p> <p>○図書館主催</p> <p>（読み聞かせ講座）</p> <p>○市政出前講座</p> <p>（「親の力」を学びあう学習プログラム講座）</p> <p>○まちづくり協議会</p> <p>（青少年部会）</p>	<p>【ヒト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民（キーパーソン、協力者） ○自治協議会 ○公民館団体利用者（サークル・クラブ等） ○小・中・高等学校（児童生徒、教職員、保護者（PTA）） ○民生委員、主任児童委員、保健師、保育士 ○老人会、女性会、子ども会 ○社会福祉協議会 ○農業関係団体 ○地元企業 ○NPO ○地域おこし協力隊 <p>【モノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境 ○特産品、生産物 ○公共施設（集会所、公園） ○教育施設（公民館、学校、図書館） ○高齢者施設 ○幼稚園・保育所 ○文化財、史跡 ○商業施設、工業施設 ○地元商店 <p>【コト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境保全、防災・防犯、地域安全活動 ○郷土料理 ○伝統行事（祭り） ○伝統芸能 ○観光 <p>【カネ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり支援事業補助金 ○自治協議会予算 ○▲▲助成事業 	<p>○学校や地域活動に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成</p> <p>○体験講座▲▲キッズの充実（地域資源の活用、地域課題発見・解決学習）</p> <p>○学校・公民館合同学習フェスタ（公民館まつりと合同実施）</p> <p>○「サテライト講座」の実施</p> <p>○学校の授業へ住民が参加</p> <p>○公民館の講座へ学校の授業の一環で子供たちが参加</p>
		【参考にしたい取組】			
		<ul style="list-style-type: none"> ○山陽小野田市教育委員会・中央公民館の実践事例（公民館を拠点とした地域学校協働活動） ○ひがしのキッズ（竹原市立東野公民館） ○さかわアドベンチャーパーク（チームさかわ） 			

◆テーマに関連して、地域の現状・実態等を把握し、できるだけ具体的に記載しましょう。（数値、データ、具体名称（事業名、組織名、名前等）

2 地域を知ろう（分析シートを作成）

①地域の現状・課題の把握

- 地域の現状や実態をできるだけ具体的にたくさん収集し，地域課題の把握や解決の方向性の洗い出しを行う。

- ・地域（コミュニティ）の情報を収集し，地域の特性を見つけましょう。
- ・見えてきた地域の実態から，「地域の課題」を抽出し，「解決の方向性（こんな地域にしたい）」を描いてみましょう。

2 地域を知ろう（分析シートの作成）

②既存の事業（現在・過去）の成果と課題の整理

○これまでに取り組んできた公民館等での講座や事業を捉え直してみる。

- ・過去に類似した取組がなかったか調べてみましょう。
- ・その取組が継続していない（している）理由は何か検証してみましょう。

2 地域を知ろう（分析シートの作成）

③地位の資源（ヒト・モノ・コト・カネ）の洗い出し

○地域の人材や資源を積極的に活用するために、どんな資源があるか、できるだけ具体的に洗い出す。

<p style="text-align: center;">【ヒト】</p> <p><input type="checkbox"/>住民(キーパーソン, 協力者) <input type="checkbox"/>自治協議会 <input type="checkbox"/>公民館等団体利用者(サークル・クラブ等) <input type="checkbox"/>小・中・高等学校(児童生徒, 教職員, 保護者(PTA)) <input type="checkbox"/>民生委員, 主任児童委員, 保健師, 保育士 <input type="checkbox"/>老人会, 女性会, 子ども会 <input type="checkbox"/>社会福祉協議会 <input type="checkbox"/>農業協同組合 <input type="checkbox"/>地元企業 <input type="checkbox"/>NPO <input type="checkbox"/>地域おこし協力隊 <input type="checkbox"/>その他</p>	<p style="text-align: center;">【モノ】</p> <p><input type="checkbox"/>特産品, 生産物 <input type="checkbox"/>公共施設(集会所, 公園, 駅) <input type="checkbox"/>公共交通 <input type="checkbox"/>教育・文化施設(学校, 大学, 図書館, 博物館) <input type="checkbox"/>地元企業・商業施設・商店 <input type="checkbox"/>福祉・医療施設 <input type="checkbox"/>幼稚園・保育所・認定こども園 <input type="checkbox"/>文化財・史跡 <input type="checkbox"/>工業施設 <input type="checkbox"/>その他</p>
<p style="text-align: center;">【コト】</p> <p><input type="checkbox"/>歴史 <input type="checkbox"/>文化 <input type="checkbox"/>郷土料理 <input type="checkbox"/>伝統行事(祭り) <input type="checkbox"/>伝統芸能 <input type="checkbox"/>産業 <input type="checkbox"/>観光 <input type="checkbox"/>自然・環境 <input type="checkbox"/>防災・防犯・地域安全活動 <input type="checkbox"/>その他</p>	<p style="text-align: center;">【カネ】</p> <p><input type="checkbox"/>まちづくり支援事業補助金 <input type="checkbox"/>自治協議会予算 <input type="checkbox"/>その他助成事業等 <input type="checkbox"/>その他</p>

(プロジェクト名)



地域の現状・課題 (今の地域)

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

(分析シートから転記)

① 目的を立てる

取組の概要

ポイント

- ①
- ②
- ③

② 取組内容を描く

発展・継続・関連

成果指標 (目的の達成度、波及効果)

③ 成果指標 を立てる

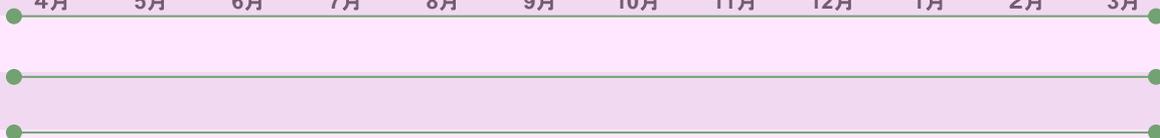
実施体制 (連携・協力団体等)

④ 実施体制 を組む

運営財源・活動資金

⑤ 運営財源・活動 資金を計画する

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



企画シート作成：①「目的」を立てる

- 事業を立案する際には、様々な要素を総合的に考えて検討する必要がある。
- 事業の「目的」をしっかりと定めることにより、それらの要素が一つの方向性に集約され、揺らぎのないものになる。
- どのような切り口で地域課題を解決したいのかを考えてプロジェクトの「目的」（地域課題解決の方向性）を描く。

企画シート作成：①「目的」を立てる

「目的を立てる」際のポイント

- ・ 地域の現状・課題（今の地域）に対して、どのような地域にしていきたいのか、地域の未来像を想定し、「課題解決の方向性」をイメージしてみましょう
- ・ 「持続可能な開発目標」（SDGs）の視点と関連付けて考えてみましょう

持続可能な開発目標 (SDGs)

平成27年(2015)9月の国連サミットで採択されたもので、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。**17のゴール**・**169のターゲット**から構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

広島県においても、平成30年6月に「SDGs未来都市」に認定、8月に「SDGs未来都市設計計画」を策定して、SDGsの達成を通じた平和構築の実現に積極的に取り組んでいます。



SDGs 17の目標と169のターゲット（例）

○目標だけでなくターゲットも参照しましょう。



Goal 4

全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し，生涯学習の機会を促進する

- 4.1 2030年までに，全ての子供が男女の区別なく，適切かつ効果的な学習成果をもたらす，無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
- 4.2 2030年までに，全ての子供が男女の区別なく，質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより，初等教育を受ける準備が整うようにする。
- 4.3 2030年までに，全ての人々が男女の区別なく，手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
- 4.4 2030年までに，技術的・職業的スキルなど，雇用，働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- 4.5 2030年までに，教育におけるジェンダー格差を無くし，障害者，先住民及び脆弱な立場にある子供など，脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.6 2030年までに，全ての若者及び大多数（男女ともに）の成人が，読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
- 4.7 2030年までに，持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル，人権，男女の平等，平和及び非暴力的文化の推進，グローバル・シチズンシップ，文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して，全ての学習者が，持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

★SDGs(持続可能な開発目標)17の目標&169ターゲット個別解説

<https://imacocollabo.or.jp/about-sdgs/17goals/>

SDGs報告2019（国際連合広報センター）



持続可能な開発目標(SDGs)報告
2019

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/

★17のターゲットに関する報告が掲載されていますので、企画・立案の際の参考資料・データとして、参照してください。



4 質の高い教育をみんなに
すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



7億5,000万人
読み書きのできない成人の数



サハラ以南アフリカでは、**過半数の**学校で

これらのアクセスが欠如

- ・基本的な飲料水
- ・洗面設備
- ・インターネット
- ・コンピューター



6歳から17歳の
子どもの

5人に1人は、
学校に通えず



中央アジアでは、学校に通っていない小学校就学年齢の
女兒数が男児数を **27% 上回る**

企画シートを作成：②取組内容を描く

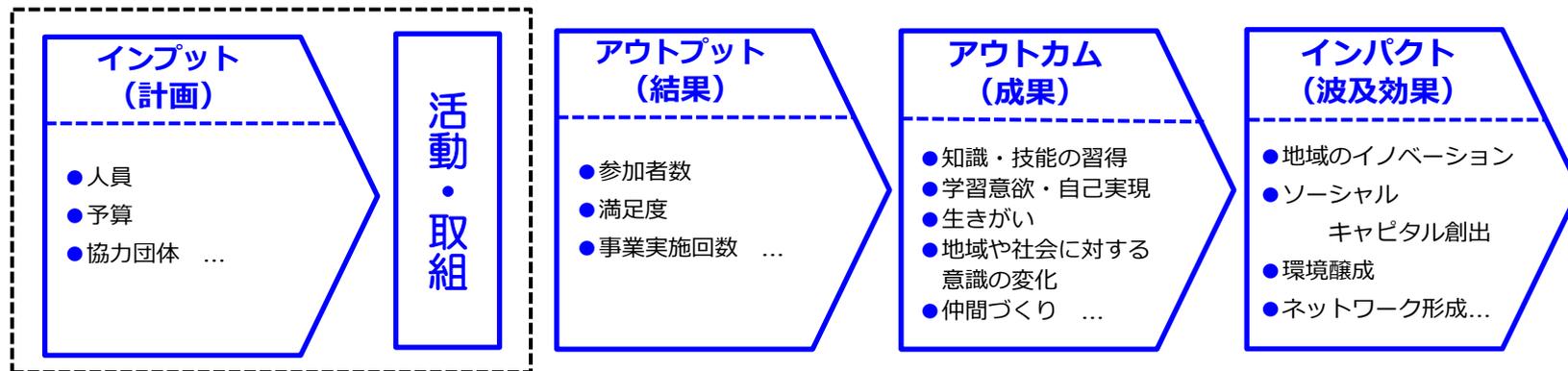
○どのような資源（ヒト・モノ・カネ）があり、必要となるのかを整理して具体的な取組内容を描いてみましょう。

- ・ アイディアを生み出す
- ・ 既存の講座・事業の見直し（リデザイン）から始める
- ・ 目的と手段が入れ変わっていないか確認する
- ・ 広報に取り組む ・ スケジュールを立てる
- ・ プロジェクトの未来の姿を描く
- ・ 取組のポイントをまとめる
- ・ プロジェクト名を考える

企画シートを作成：③「成果指標」を立てる

- 「目的」を達成することができたか評価するための「成果指標」（目的の達成度・波及効果）を立てましょう。具体的にどのような状態になったら企画が成功し、成果が上がったと言えるか考えてみましょう。

- ・「評価・検証」の計画は，企画段階に立てる
- ・「目的」に立ち返る
- ・「定量評価」と「定性評価」を設定する



企画シートを作成：④「実施体制」を組む

- 「目的」を達成するために必要な「実施体制」を考えましょう。

- ・プロジェクトのステークホルダー（関係者・関係機関）を洗い出し、互いの強みを生かし合える効果的な仕組み・体制（チーム）を描いてみる

企画シートを作成：⑤運営財源・活動資金を計画する

○プロジェクトを進めていく上で必要な「運営財源・活動資金」を考えましょう

- ・主催事業の予算の他に、助成金・補助金等の活用も検討する。

開発モデルの試案



地域づくりビジョン発! ○○活性化プロジェクト

地域の現状・課題 (今の地域)

- 地域自治組織の在り方や見直しの必要性
 - ・人口減少により、組織の活動維持が困難
- 全住民が共有した「地域づくりビジョン」策定の必要性
 - ・既存のビジョンの認知度が低く、地域づくりに向けた方向性が定まっていない
 - ・ビジョンを踏まえた活動・事業が皆無
- 地域行事へ参画する若者を地域づくりの関心・感心へつなげる必要性

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- 住民参画による「地域づくりビジョン」の形成・共有
- 老若男女を問わず、多世代が住みたいと思える地域づくり (I・Uターン者、障がいのある方、移住者、外国人へもやさしい地域)
- 若い世代の積極的な地域参画・活気のある地域づくり事業の展開



取組の概要

- ポイント**
- ① 必要かつ実現可能な「地域づくりビジョン」の策定と共有!
 - ② 若い世代を巻き込んで、多世代が地域の過去・現在・未来を語り合い!
 - ③ 「地域づくりビジョン」の実現に向けた既存事業のリデザインと新事業の立案・実施!

準備期

- 新ビジョン策定に向けた意見交換と研修会
 - ① 「過去・現在・未来の地域の現状を知り、予想し、どう動くべきか」をまず自分達で再考
 - ② これからの地域づくりやビジョンの必要性を他地域の事例を参考にしながら学習
- 新ビジョン策定に向けた検討会議
 - ① 地域づくりビジョン策定に向けたプロジェクトチームの発足
 - ② 地域のために「残したい・改善したい・創りたい」等をテーマにワークショップを開催
 - ③ 地域の現状や住民の声、ワークショップで出された意見を参考に新ビジョンを策定

試行期

- 新ビジョンに基づいた地域づくりを実現するための事業・組織の検討会議
 - ① 既存事業のリデザイン案、新規事業の企画案の検討
 - ② 新ビジョンに基づいた地域づくりのために組織体制の見直し検討

実施期

- 新ビジョンに基づいた事業の試行・実施及び意見の聴取
 - ① 新ビジョンに沿った事業の試行・実施
 - ② 関係機関、団体等への意見聴取
 - ③ 新ビジョン・事業等を評価するプロジェクト会議の定期開催

発展・継続・関連

・地域づくりビジョンに沿った事業の見直しと展開・関係機関、団体との連携



成果指標 (目的の達成度、波及効果)

- 【定量評価】**
- ・プロジェクトへ参加した住民数
 - ・新地域づくりビジョンの策定
 - ・組織体制の見直し
- 【定性評価】**
- ・若い世代の地域づくりへの参画
 - ・地域の活性化
 - ・地域づくりへの住民意識の向上と組織強化

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・○○地区振興協議会
- ・青年会
- ・こども会
- ・PTA

運営財源・活動資金

- ・地域づくりビジョン策定に係る補助金
- ・○○地区振興協議会予算

【参考情報】

・小国丸も応援! 地域づくりビジョン発! 小国地区活性化プロジェクト (小国自治振興センター・小国地区振興協議会) (R01・02「ひろプロ」モデル事業)

地域みんなで☆子育て応援団プロジェクト (家庭教育支援チーム〇〇)

地域の現状・課題 (今の地域)

- ・親が身近な人から子育てを学ぶ機会の減少
- ・家庭教育に関する身近な学びや相談の機会の不足
- ・家庭と地域のつながりの希薄化
- ・地域住民(多世代)同士の交流の場の不足

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・「親」の主体性を育み、支援の循環を生み出す学びの場づくり
 - ・子育て家庭を支える地域のネットワークと体制づくり
 - ・多様な世代が関わり合い、安心して子育てができる地域コミュニティの創造
- ▶ **親と子の育ちを応援する“つながり”と“学び”の場としての公民館**



取組の概要

ポイント

- ① 「してあげる支援」から、親が親自身の力で育っていくための「力を引き出す支援」へ！
- ② 子育て家庭と多世代の交流による関係づくり (地域育ち・地域がひとつの大きな家族)！
- ③ 子育て中の親 (当事者) や地域の人材で支援チームを立ち上げ (次世代の支援者を育成)！

準備期

- **子育て応援団プロジェクト・ワークショップの開催**
 - ・地域内の子育て支援に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
 - ・地域課題を共有し、一体的な家庭教育の推進を図る
- **家庭教育支援チーム (立ち上げ準備) キックオフ会議 (企画会議：毎月定例会)**
- **家庭教育講演会**

試行期

- **子育ておせっかいさん養成講座 (「親プロ」ファシリテーター養成講座)**
 - ・次世代の支援者育成 (→チームへの参加呼びかけ)
- **「子育てにっこりカフェ」(オープンスペース) 開設**

実施期

- **ママとパパの子育て応援講座** ■ **「親プロ」講座 (主催講座、訪問型講座)**
- **子育て応援ファミリーフェスタ (公民館まつりと合同実施)**
 - ・「親プロ」体験ブース ・親子で楽しめる体験活動ブース ・子育てサークル紹介ブース等
- ▶ **「家庭教育支援チーム〇〇」の発足**

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標 (目的の達成度、波及効果)

【定量評価】

- ・講座等に参加した住民数
- ・家庭教育支援に関わった支援者等の数
- ・家庭教育支援チームの発足
- ★この地域で子育てしたいと思う住民数

【定性評価】

- ・家庭教育支援のネットワークの構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・〇〇公民館(プロジェクト主管)
- ・「親プロ」ファシリテーターの会
- ・健康福祉部局 ・民生児童委員
- ・〇〇地区自治協議会・社会福祉協議会
- ・地域の子育てサークル ・保育所、幼稚園、児童館、小学校、中学校、PTA ・老人会 ・女性会 ・子ども会

発展・継続・関連

- ・家庭教育支援チームの活動促進、自立化支援 ・学齢期の子供の家庭への支援の充実
- ・つながりにくい家庭に支援をつなげるための、福祉部局や学校との連携の仕組みづくり
- ・子育てガイド・リーフレット作成 ・地元企業等との連携

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

【参考情報】

- 府中町家庭教育支援チーム「くすのき」(府中町)
- 向東地区家庭教育支援チーム「親ちから」(尾道市)
- 尾道市「すまいるぱれっと」(「親プロ」ファシリテーターの会)
- 未来のまちのおせっかいさん養成講座(海田公民館)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							ワークショップ開催 キックオフ会議			準備期 企画会議		家庭教育講演会
2年目		「おせっかいさん養成講座 企画会議(毎月1回)」		子育てカフェ開設(毎週○曜日)			子育て応援講座(4回講座)					
3年目		「おせっかいさん養成講座 企画会議(毎月1回)」		子育てカフェ(毎週○曜日)			子育て応援講座(4回講座)			ファミリーフェスタ開催		★家庭教育支援チームの発足

地域の輪 ○○っ子応援隊プロジェクト

地域の現状・課題 (今の地域)

- 新興住宅地域で新しい団地が急速に増加
- 子育て世代の新しい家庭が多く、学校の児童・生徒数も増加
- 子育て世代や多世代間の交流が希薄
- 学校と地域をつなぐ具体的な仕組みがない

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- 次世代の地域を担う人づくり
- 学びを通じた地域づくり・つながりづくり
- 学校と地域の教育活動をつなぐ仕組みづくり
- ▶「地域の輪」で未来を担う子供たちの育ちを応援する仕組みづくり！



取組の概要

- ポイント**
- ① 今あるもの・こと (ヒトやつながり) を大切に、地域を活性化！
 - ② 人と人、人と学びをつなげ、学びのネットワークを広げる「公民館」！
 - ③ 大人も子供も、地域も学校も、ともに学びあい・元気になれる「地域の輪」！

○**応援隊チーム作り** ※情報発信・広報活動 (HP, SNS, クチコミ, 情報誌等を積極的に活用)
 ・既存事業の参加者・関係者 (こども体験講座参加の保護者等) や関係団体に呼びかけチームを結成
 → 出入自由な緩やかなチームづくり → 活動に応じて地域の輪 (ネットワークを) 少しずつ広げる

○**チーム企画会議・事業実施**
 ●**こども体験講座の企画・実施**
 → 茶話会形式で楽しく会議を運営。開始時のファシリテーター (進行役) は公民館職員が担当
 → メンバーの「こんなことがしてみたい」という思いを引き出し、実現に向けて支援
 ・チーム主体による事業実施 (地元企業見学・体験会・こどもマイスター養成講座等…)
 ・こどもマイスターを講師として「こどもによるこどものためのワークショップ」を公民館まつりで実施

●**学校との連携・協働事業の検討・実施**
 → 勉強会 (研修) と並行してできるところからスタート
 例) 地域課題発見・解決学習・郷土学習の応援 例) 家庭教育支援活動
 例) 学校に対する様々な力活動 (読み聞かせ, 地域講師, 学習支援)
※子供たちの地域貢献活動, 起業家精神育成, プログラミング, グローバル教育, キャリア学習など, 学校だけでは対応しにくい多様な学習活動を地域力で支援



成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

- ・夏休みキッズ講座参加者数 (子供)
- ・夏休みキッズ講座に協力した保護者の人数
- ・協力隊チーム参加メンバーの数
- 【定性評価】
- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力 (ソーシャルキャピタル) の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)



発展・継続・関連

- ・夏休みキッズ講座の継続
- ・チームメンバーの人数増加 (つながりの輪を広げていく)
- ・地元企業との連携
- ・企画会議の継続
- ・中学生 (とその保護者) の活躍の場の提供

運営財源・活動資金

- ・主催講座謝金
- ・住民自治協議会予算
- ・講座参加費

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目				夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座		応援隊の立ち上げ	チーム会議			準備	公民館まつり
2年目			夏休み講座実施会議	夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座		企画会議				準備	公民館まつり
3年目			夏休み講座実施会議	夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座		企画会議				準備	公民館まつり

【参考情報】
 ・地域の輪参加していいとも！ ~川上プロジェクト~ (東広島市川上地域センター (企画・試行中))

つながりプラットフォームプロジェクト（公民館カレー食堂）

地域の現状・課題（今の地域）

- ・一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題
- ・家庭・地域の教育力の低下
- ・地域住民（多世代）の交流の場の不足
- ・地場産業（農業等）の担い手不足

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・地域全体で全ての子供を育む仕組みづくりと多世代交流
- ・だれもが気軽に訪れ、集い、つながりあえる居場所づくり
- ・地元の食材や地場産業（農業等）への理解・愛着と将来的な担い手育成

▶食（カレー）をテーマに地域の誰もが集える“プラットフォーム”を創造



取組の概要

ポイント

- ① 経済的に厳しい、困難を抱える家庭の子供だけでなく地域すべての住民（子供）を対象に！
- ② 既存の公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに（“動員”でなく“楽しんで”活動）！
- ③ お年寄りから子供まで、親しみやすく、誰もが大好きな「カレー」をテーマに事業展開！

準備期

■プロジェクトチームの組織化、事業企画ワークショップ開催

- ・関係団体・サークル等への説明と協力依頼
- ・協力者によるプロジェクトチームの組織化
- ・地域の実態や課題を把握・共有し、プロジェクトの展望を描くワークショップを開催

試行期

■プロジェクト会議

■事業説明会（広報、周知説明）

■「公民館カレー食堂」試行（年間5回）

- ・公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに！

実施期

■「公民館カレー食堂」定例開催（毎月第1土曜日）

■公民館まつりへの出展・協力（成果発表）

- ・各団体のカレー試食ブース ・“こどもカレー食堂”開店！（中高生による主体的な運営）
- ・プロジェクトの紹介展示ブース

※輪番制でオリジナルカレーを創作
※地元の食材（規格外食材等）を農業法人やフードバンク等から提供協力

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・プロジェクトに参加した住民数
- ・協力団体（ボランティア）数や提供食材数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館（プロジェクト主管）
- ・〇〇地区自治協議会
- ・〇〇地区社会福祉協議会
- ・〇〇地区農業団体
- ・保育所、小学校、中学校、PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市（町）まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会（農業部会）予算
- ・「子ども食堂」関係の補助事業等活用
- ・ひろしまこども夢財団こども食堂支援事業補助金
- ・農業法人やフードバンクからの食材提供

発展・継続・関連

- ・“出張”公民館食堂の実施（他施設・他地域への出前事業） ・つながりにくい家庭へのアクセスの検討
- ・こどもカレー食堂の定例実施 ・学校や企業、団体等の連携の広がり継続 ・カレー以外のメニュー開発

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目										準備期		
										事業企画WS		
2年目				試行期								
		事業説明会	公民館食堂①	公民館食堂②	公民館食堂③	公民館食堂④	公民館食堂⑤					
		PT会議①	PT会議②							PT会議③		
3年目					実施期							
		公民館食堂（毎月1回）								公民館まつり		
		PT会議①	PT会議②							PT会議③		

【参考情報】

- 浅原食堂（廿日市市浅原市民センター）
- 循誘公民館カレーの日（佐賀県佐賀市）の取組
- 各地の「子供食堂」の取組

チャレンジ防災！プロジェクト in ○○

地域の現状・課題（今の地域）

- ・地域住民の防災意識が低い
- ・災害発生直後の避難所（公民館）運営の仕組みがない
- ・高齢者、障害者、乳幼児（子育て）世帯等の孤立・支援

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・住民の防災意識の向上
 - ・地域防災力による避難所（公民館）の開設
 - ・災害時における地域での助け合いネットワークの形成（関係づくり）
- ▶ **地域の安全・安心拠点としての公民館づくり**



取組の概要

ポイント

- ① 「防災」という住民誰もが自分事となる共通課題への取組みを通じて、地域力を醸成。
- ② 既存の「地域資源」や「事業」を生かして、できるところから無理なくスタート。
- ③ 公民館が核となり、学校・家庭・地域の連携を通じて防災教育を幅広く推進。

準備期

- **防災教育ネットワーク会議の組織化、防災ワークショップの開催**
 - ・地域内の防災・福祉・教育に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
 - ・地域課題を共有し、地域の関係団体で一体的に防災教育を推進

試行期

- **避難訓練・防火訓練** ■ **救命救急講習**
- **チャレンジ防災○○ウォークラリー**
- **災害時避難所開設訓練（HUG避難所運営ゲーム）**
- **「広島県『みんなで減災』一斉地震防災訓練」参加（毎年11月）**

実施期

- **チャレンジこども○○防災キャンプ**
- **チャレンジ防災フェスタ（公民館まつりと合同実施）**
 - ・防災プロジェクトの紹介 ・ハザードマップ等の掲示
 - ・防災工作教室、防災紙芝居、防災カルタ ・消防車展示（消防車と記念撮影）

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

発展・継続・関連

- **体験型防災学習の充実** ・クロスロードゲーム ・DIG（災害図訓練） ・「防災キッズ」養成講座
 ・防災教室「ひろしまJプログラム」 ・防災運動会（○○地区運動会と合同実施）

成果指標（目的の達成度、波及効果）

- 【**定量評価**】
- ・地域防災活動等に参加した住民数
 - ・△△市防災情報メールの登録者率
 - ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数
- 【**定性評価**】
- ・地域内ネットワークの構築
 - ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・○○公民館（プロジェクト主管）
- ・○○地区自治協議会
- ・○○地区社会福祉協議会
- ・○○地区自主防災会
- ・保育所、小学校、中学校、PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・○○地区自治協議会（防災部会）予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

【参考情報】

- 地域における防災教育の実践に関する手引き（内閣府）
- チャレンジ防災in原（廿日市市原市民センター）
- 防災研修&炊出訓練（庄原市口和自治振興センター）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							ネットワーク会議立ち上げ キックオフ会議①		NW会議②	準備期		
2年目	避難訓練、防災訓練 NW会議①		試行期	救命救急講習 NW会議②			防災ウォークラリー 一斉地震防災訓練				避難所開設訓練 NW会議③	
3年目	避難訓練、防災訓練 NW会議①		実施期	救命救急講習 NW会議②		防災キャンプ	防災フェスタ 一斉地震防災訓練				避難所開設訓練 NW会議③	

「〇〇100歳大学」プロジェクト —人生100年時代をどう生き抜くか—

地域の現状・課題（今の地域）

- ・人口減少，超高齢化社会の進展（〇〇地区／高齢化率：〇〇％）
- ・高齢者の生きがい創出，健康づくり（健康寿命）
- ・独居高齢者，高齢期の孤立化防止
- ・高齢期の個人の自立と地域参画・社会貢献の仕組みづくり

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・体系的に「古い」の基礎・基本を学ぶ
- ・同年代の仲間をつくり，地域で生きる（地域の絆づくり）
- ・高齢者の主体的な学びの支援と「学びの循環」づくり（地域参画・社会貢献）

▶人生100年時代を見据え、公民館を拠点とした「〇〇100歳大学」を展開



取組の概要

- ポイント**
- ①「教室」は住民に最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」を活用
 - ②「先生」は現場の実践家・専門家，企業・大学・行政など，**地域の多様な主体・人材を積極的登用**
 - ③「授業」は「講義」とともに現場での「**体験**」（**実技，演習，対話，フィールドワーク**）を豊富に
 - ④「カリキュラム」は**住民（学習者）の参画**による協働型学習プログラムとして開発
 - ⑤地域の学びのネットワークを支援する**コーディネーター人材（社会教育士）**を育成・配置

準備期

■プロジェクトの周知と理解・協力の促進，ネットワーク・チームの組織化

- ・自治協議会ほか，地域内外の関係団体（関係者）との連携，ネットワーク化に向けたコーディネート
- ・プロジェクトチーム（運営委員会）の立ち上げ，企画調整会議
- ・人生100年時代をテーマとした講演会・地元ワークショップ開催（学びから始まる地域づくり講演会・懇談会）
「人生100年時代をどう生き抜くか—〇〇の今と未来を考える—」

試行期

■「〇〇幸齢カフェ」の試行実施

- ・公民館の既存事業（百歳体操・終活・高齢者の料理教室等）と組み合わせて“〇〇幸齢カフェ”を実施
- ・「〇〇100歳大学」の展開（学習プログラム開発，運営ノウハウ構築等）に向けた試行実施

実施期

■「100歳大学・〇〇キャンパス」の実施

- ・運営委員会で開発したカリキュラムにより「100歳大学・〇〇キャンパス」を開講
- ・認知症予防，特殊詐欺予防，福祉制度，地域参加，幸せづくりなど，老いを学び・備える講座の実施（市の「まちづくり出前講座」等を積極的活用） → 〇〇地区をモデルに市全域に向けた展開へ

成果指標（目的の達成度，波及効果）

【定量評価】

- ・講座の実施回数
- ・講座参加者数
- ・今後の生活に役立つ新たな知識等を得られた人の割合
- ・この地域で暮らし続けたいと実感した高齢者数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

【連携】

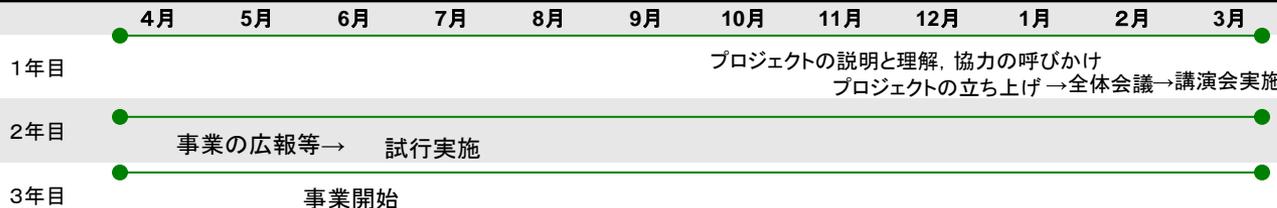
- ・各地区自治協議会
- ・〇〇市教育委員会生涯学習課
- ・〇〇市役所〇〇支所

【協力】

- ・地域おこし協力隊 ・老人会 ・女性会
- ・社会福祉協議会 ・図書館 ・大学 ・企業

発展・継続・関連

- ・受講修了者の主体的なプロジェクトの運営に向けた支援 ・事業（カリキュラム・運営）の改善・充実
- ・講師（地域人材）の育成と確保 ・協力団体等の連携の広がりと継続 ・地域参画・社会貢献活動への支援



運営財源・活動資金

- ・公民館事業講師謝金
- ・まちづくり補助金

【参考情報】

○東広島100歳大学（仮称）in福富プロジェクト
（東広島市福富生涯学習支援センター，各地域センター（R01・02「ひろプロ」モデル事業）

「○○×アート=∞」プロジェクト

地域の現状・課題（今の地域）

- ・地域住民の地元への興味関心が希薄
- ・地域住民（多世代）間交流の機会の不足
- ・若年世代の地域参画機会の減少
- ・空家の増加
- ・地域から出る若者が多い（Uターンで帰ってくる若者が少ない）

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・地域を知る～地域の魅力を発見・発信
- ・若年世代の地域参画の十世代間交流
- ・地域内外の人とのつながりの中で地域への関心と愛着を醸成

▶「アート」をテーマに「○○版」学びのネットワークを構築



取組の概要

ポイント

- ① 「若い世代」と「アート」の力でまちにムーブメントを起こす！
- ② ワクワクする「学びの場」と「学びの輪」づくり！ 誰もが気軽にアートで表現！
- ③ 行ってみたくなる「公民館」▶ 暮らしてみたくなる・暮らし続けたくなる「まちづくり」！

■「○○アートプロジェクト」チーム会議（随時開催）

・地域おこし協力隊や住民（有志メンバー）を中心にチームをつくり、活動の展開とともにネットワークを広げる

■「○○アートカフェ」 - ○○のアートを感じよう -

・「アート」をテーマに、地域資源を生かした様々な事業を展開し、地域内外に○○の魅力を広げる

●手仕事ワークショップ

・地域講師（地域おこし協力隊）の協力を得た手仕事ワークショップ

●○○インスタ映えツアー

- ・知る人ぞ知る地域の「映えスポット」（農園、商店、風景・観光スポット…）を巡るインスタ映えツアー
- ・近隣在住のプロのカメラマンの協力を得て、写真の撮り方の知識や技能を学ぶ
- ・撮影した「映え写真」を各自がSNSでアップし、地域の魅力を世界へ発信

●キッズ（親子）アート・ワークショップ

●○○まちかどギャラリー

・ワークショップで作成した作品（学習成果物）を公民館や地域の施設・商店等を「ギャラリー」にして展示

●美術（現代アート・マンガ）や音楽・映画等をテーマにしたイベントの展開

・地域にゆかりのある作品（美術・音楽・映画）をテーマに様々なイベントを展開、地域内外の若い世代のアーティストとコラボ



成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・公民館利用者数
- ・プロジェクトに参加した人の数
- ・地域で暮らし続けたいと思う住民数住民数
- ・またこの地域を訪れてみたいと思う人の数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

【主管】

・○○公民館

【連携・協力】

- ・地域おこし協力隊
- ・地域住民（移住してきた若い世代など）
- ・大学生

運営財源・活動資金

- ・公民館主催事業予算

発展・継続・関連

- ・まちの魅力が詰まったフリーペーパーの発行（公民館だよりの充実）・住民による手作りまち情報サイト立ち上げ・運営の支援
- ・地元企業、大学、学校等との連携強化
- ・空家活用（リノベーション）の検討

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	準備期		○○アートプロジェクトチーム会議（随時）				試行期・実施期		ワークショップ			
2年目	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	実施期		事業実施（○○アートカフェ）				○○アートプロジェクトチーム会議（随時）					
3年目	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	実施期		事業実施（○○アートカフェ）				○○アートプロジェクトチーム会議（随時）					

【参考情報】

- ・とよさか×アートプロジェクト（東広島市豊栄生涯学習センター（企画・試行中））